

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000143		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム真寿苑		
所在地	愛知県豊橋市牟呂町字東明治郷下1番地		
自己評価作成日	平成24年2月17日	評価結果市町村受理日	平成24年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2392000143&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26番地スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべては利用者様の笑顔のために」を基本理念とし利用者様が安心して暮らせるよう支援しています。職員が笑顔を忘れずに利用者様のできる事、得意な事を引き出して対応しています。まわりを田畑に囲まれた施設ですが、夏は豊橋の祇園の花火、蒲郡の花火がテラスから鑑賞できます。のんびり、ゆっくりと一人ひとりのペースで生活できるよう支援しています。当施設は2階が小規模特別養護老人ホーム、小規模多機能、3階がグループホームです。グループホームでの入浴が困難になりましたら1階の機械浴を利用していただけれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな風景の中にある真寿苑は、新設であることから万全の安全対策がなされ、また、広々としたテラスや、廊下、居間、居室、浴室などのあるホームで利用者は暮らしている。テラスや廊下はそこを歩くだけでも運動や気分転換になり、機能の維持にもつながっている。
地域とのつながりを徐々に築きつつあり、ホームを拠点として、新しい馴染みの場所を作りつつある。本部からのつながりで慰問に訪れてくれる人もあるが、独自に近隣の学校などとの交流もあり、その交流による刺激は利用者によりハリのある生活をもたらしている。
職員も、理念のもとに、笑顔で利用者に接し、より楽しい生活を送れるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他「すべては利用者様の笑顔のために」を基本理念とし、見える位置に掲示して毎日確認できるよう職員全員で意識しながら支援している。	基本理念を基幹にして、一年間の目標をユニットごとに決め、職員はそれぞれの個人目標も決めて、常に実現実行にとりこんでいる。次年度目標を決める際には前年度の反省をふまえ、より一歩踏み出した支援にむけて設定するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	7月にお相撲さんの慰問があり地域の保育園児と交流会を行っている。また、祇園の花火の日に3階テラスで家族交流会を開催している。近所のスーパーへ買い物に出かけている。	近所にある公園や神社に散歩にでかけることで、馴染みの場所を作り近隣との交流が始まりつつある。また、力士の訪問日に保育園児もやってきて、にぎやかな交流ができた。隣接する高校の文化祭に招待されたり、交流の場も広がってきている。	文化祭や慰問を足がかりに、その交流の輪が広がることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れ、認知症の利用者様への理解について話す機会を設けている。福祉用具の体験なども行ってもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に開催しており、参加者の方から貴重な意見をいただいている。当施設のある地域においては自宅内に無線ラジオが設置されており、エスケープや災害時等地域の皆様にご協力を得る事態が発生した場合には、放送をしていただける事となっている。また、当施設も避難所として協力させていただいている。	運営推進会議を通して、出席者に認知症の理解や、GHのことを理解してもらおう機会にしている。また、もしもの際には協力してもらえよう、働きかけをしている。 うち一回は会議の当日、防災訓練をして、その結果を即時に出席者と話し合うことで、問題点や協力してもらおう点などを共有できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新時期や運営推進会議後長寿介護課担当者へ入居者様の報告を行っている。また、市町村担当窓口へ出向いたり担当者の訪問時に事業所のサービスの取り組みを伝えている。	開所したばかりということもあり、利用者の入居手続きのことや、認定更新など、疑問点を質問したり問い合わせたり、と日ごろから連絡を密にとっており、また文書を直接渡しにいくことにより、情報交換の機会を作ったりと協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室は施錠出切る様になっているが、利用者様が鍵を掛けることはあるが職員が鍵を掛けることは行っていません。安全に配慮して自由に暮らせるように支援している。	職員は本部法人の勉強会や外部勉強会に出席して、身体拘束について学んでおり、フロア会議の時などにもスピーチロックなどについて話し合っている。安全面に配慮してエレベーターの利用には暗証番号が必要であるがその他はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待については常に注意し利用者様の立場に立った支援ができるように努めている。入浴時に身体を確認して注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見保佐人の利用者様が以前入居しており一部の職員は理解して対応していたが、ほとんど管理者一人に対応していた為、理解していない職員もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。重度化や見取りについての対応方針、医療連携体制については説明し同意を得ようとしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回サービス向上アンケートを家族様に記入いただき結果を施設内に掲示している。貴重な意見として職員に周知し家族の意見、要望に沿えるようアンケートをもとに会議で話し合い、改善するようにしている。	施設内にパンの訪問販売が定期的にくるのだが、その購入に際し、当初は職員が間に入って買っていたのを利用者が直接お金をもってやりとりしたいという希望を汲み取り、変更するなど、小さな要望にも目や耳を傾け、改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで職員の意見、要望を聞くようにしているが会議の中で発言がない職員には面談時や日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけ、悩みなどを聞き出すようにしている。	会議やミーティングを通して、管理者は職員の要望や意見を聞いているが、意見や支援の仕方については利用者側にたつ視点で職員にアドバイスをしたり、ストレスをためないよう話に耳を傾けたりしており、職員も話しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。年2回人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修についてはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。法人内の研修についてはパート職員も参加できるようにしている。研修報告は報告書を提出し、毎月の会議で発表し研修資料を配布している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し意見交換、勉強会など行っている。法人内のグループホームへの交換研修や会議での事例検討等を通して、事業所以外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり話を聞くようにしている。家族が求めていることを理解してどのような対応ができるか話し合いを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者様に教えてもらう場面もある。そういった場面が多く持てるように工夫し声かけなどに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談し関係が途切れないように気をつけている。面会時には家族との時間が持てるように自室で過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者、家族の希望に応じて馴染みの人との関係が途切れないよう、友人から電話があれば取り次ぐようにしている。昔から利用している美容院へ家族と出かける利用者様や、マッサージへ出かける支援をしている。	ドライブが好きな利用者が多く、車で馴染みの食堂や、本屋、また実家への外出など、希望する場所への外出支援がなされている。古くからの友人が電話をくれたり、前にお世話になった民生委員が訪問してくれたりするので、その関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼食の時間は職員も一緒に利用者様とテーブルを囲み、会話をしながら楽しく過ごすようにしている。心身の状態や気分や感情で日々変化することもあるので関係がうまくいくように職員が注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、いつでも来ていただけるように心がけている。家族から相談があれば丁寧に話を聞くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情などからそれとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な利用者様にはなるべくご家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者と会話をする機会を作り、思いや要望をさりげなく聞いている。また、意志疎通が出来ない人には提案して選択肢を考え要望や思いに近づけられるように工夫して支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のファイルに面接記録、フェースシートがありいつでも確認できるようにしている。情報が少ない利用者様の家族には生活歴を聞いて作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り把握に努め、記録に残し全員が確認できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人から意向を伺い思いや意見を聞き入れている。安全、安心して生活できるように職員間でも連携を図り介護計画に反映しています。	月1回モニタリングをし評価している。日々の介護記録や個別記録を下に、利用者や家族、医師、職員で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや、利用者様の状態変化は個々の介護記録に記載し、職員間で情報を共有するように努めている。また、個別記録をもとに介護計画の見直しや評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院、送迎や買い物など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来所や地域のスーパーへの買い物、本人の希望や体調に応じて訪問理容を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族と協力し通院している。必要に応じて家族と受診同行し普段の様子や変化などを伝えている。	月2回協力医の往診があるが入居前のかかりつけ医を利用している人もいる。共に職員を通して情報は伝わって連携はできており、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は介護職員の記録をもとに連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、2日に1回は職員がお見舞いに行くようにしている。また、家族にも回復状況などを聞いて速やかな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、ご利用者様、ご家族様より事前に希望をうかがい、意向に沿った対応ができるようにしている。現時点においては重度の方、終末期に該当される方はいない。	入居時に家族と話し合い意向を確認している。医療が必要になったら他に施設に移行することを説明している。開設して1年でまだホームでは経験はないが、職員は重度化や終末期の研修を定期的に行い知識を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て年1回救命講習の研修を実施している。また、法人の勉強会で緊急時の対応について学ぶ機会を作っている。夜勤時の緊急時対応についてマニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回利用者とともに避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。災害時には地域の方の避難場所として開放することを伝え協力体制を築いている。	3月と9月に避難訓練をしている。利用者と職員は3階から外階段を使い避難している。その後の課題として車椅子の避難方法について検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もまずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけて自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。守秘義務について十分理解するようにしている。	利用者を人生の先輩として尊重しており、言葉使いも丁寧に対応しているのが訪問調査時に伺えた。また、書類など事務所で保管して個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には表情を読み取り、本人が決めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、なるべく時間を区切ることがないよう、利用者様のペースを大切にし本人の希望に添いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。家族がお化粧をしてくださることもあり、化粧を落とすことができない利用者様には職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューの説明をして食事のイメージを持ってもらうよう努めている。食事への興味を持つことで盛り付け、配膳が出来るよう支援している。	献立は管理栄養士は栄養バランスを考慮して立てているが、利用者の嗜好を考えて変更する時もある。おやつレクリエーションがあり「ごへい餅」「みたらし団子」など利用者と一緒に作り、楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日確認し、記録に残している。体調不良の時は本人の食べたいものの、食べやすい物を出すようにしている。また、食欲低下があり、食事が食べれない利用者様の対応は管理栄養士に相談しアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ、見守りを行い、できない方に関しては毎食後口腔ケアを行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見て排泄の声かけを行い、トイレで排泄できるよう支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導しており、日中はオムツをしてない人が多い。夜間にはパットを使用しているが、定期的に職員が様子を見てトイレに誘導している。また、居室にポータブルトイレを置いている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方にはヨーグルトやセンナ茶などを提供している。また、腸の動きをよくするために散歩や体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は毎日入浴することを心がけている。本人がお風呂に入りたくない日は無理に進めず、時間や人を変えて声かけを行い入浴支援している。	毎日の入浴としているが、入浴前にはバイタルチェックを行い体調を確認して一人ずつゆっくりと入浴している。利用者の要望で同性介助を行なう時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を増やし、安眠できるよう努めている。眠れない利用者様には温かい飲み物を飲みながらお話するなど配慮し、眠剤を服用しているかたには睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の説明書を薬袋にいれて、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更や、本人の状態変化が見られるときは記録をし、看護職員、協力医療機関との連携が図れるようにしている。誤薬がないように二重に服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。毎月の行事などの楽しみ事を相談しながら行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつや買い物に週2回出かけ利用者様の希望を聞き購入している。散歩、喫茶店へ行きたいと要望があれば希望に添えるようにしている。毎月外出行事を計画しているが家族の方の参加もつって一緒に出かけるよう支援している。	近隣の散歩や買い物、喫茶店、月1回の外出行事など戸外に出かける支援に努めている。また、ホームのテラスは広く、花や野菜を作っており、水やりをしたり、そこにベンチも置いてあり外気にふれて気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額の金額を持っている方もいる。買い物に出かけたり喫茶店に出かけ、お金を払う機会を設けているが忘れてしまう方が多い。毎週外部からお菓子、パンの購買があり財布を所持していない利用者様は不安になるので利用者様個々にお金を渡して払ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があれば職員が要件を伝え利用者様とお話できるよう支援している。家族様の負担にならないように気をつけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの家具は落ち着いた色で利用者様は寛いでおられる。テラスに面した廊下は広く外の景色を眺めることができ、季節の花、野菜を鑑賞できるようにしている。廊下には絵画を飾り散歩をしながらゆっくりと過ごせるようにしている。	リビングにはテレビやソファが置いてあり、利用者が思い思いに寛げるように配置されている。また、廊下に利用者の習字や日常の様子がわかる写真が掲示されている。掃除がゆきとどいて清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下が広く開放的になっている。スペースを利用してユニット合同でレクリエーションを行い交流を深めている。廊下に散歩の途中でくつろげるよう椅子を置き、一人でのんびり過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真や思い出の品、中には仏壇、神棚を持ってこられた方もいて自宅と同じ環境の中で安心して生活できるように家族と相談している。	居室はタンス、植木、テレビ、写真など馴染みのものが置いてあり、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計されており、安全に移動できる。トイレは車いすの方でも利用できるような十分な広さになっている。利用者様にとって何が分かりにくいのかを見極め必要な場合は目印を付けるなど配慮している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2392000143
事業所名	グループホーム真寿苑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 新設のグループホームなので、開所当時、近隣の人たちが見学にきて、その際、グループホームのことや認知症について説明する機会も得られ、交流の足がかりにもなっている。相撲部屋の力士の慰問があり、その時に保育園児もいっしょに交流したり、近隣の小学校の運動会に招待、高校文化祭にも招待され、交流の場が広がっている。散歩や買い物などの外出時に少しずつ、挨拶をかわすなどの交流が始まっている。	評価	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議が年に6回、地域包括支援センター職員の参加も得て開催されている。会議を通じて、認知症についての話も出て、理解してもらったり、入所についての質問に答えたり、あるいは緊急時の協力要請をしたりと、活用されている。	評価	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 職員は市が主催する講習会に参加している。施設運営、入居の手続きなど、疑問点や質問は常に市の担当者と連絡をとりあい、連携を密にし、文書だけではなく、直接担当者を訪問することで、情報を共有している。	評価	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 年に4回、本部と合同でホーム便りを発行、それとは別に個別の便りを家族に出し、利用者の様子を伝えている。年に二回、家族会を開き、ホームでの様子を家族に見てもらおうと同時に、家族も一緒に楽しむ機会を設けている。利用者の日々の様子からその意見や要望をくみとり、また家族からの要望はアンケートや電話や直接でも受入れ、職員間で共有、改善にとりくんでいる。	評価	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価	
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	評価	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	評価	○
総合評価			○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	—	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。